

「春彼岸」

暖かく過ごしやすい気候となり、今年も春のお彼岸の時期がやってきました。

彼岸という言葉は、彼の岸（かのきし）、向こう側の岸ということの意味をしています。それは迷いや苦しみのない悟りの世界、お浄土、仏様の世界の事です。それに対して、迷いや苦しみに満ちた私達の世界を此岸（しがん）と呼びます。

やはり、お彼岸といえばお墓参りに出かける人も多いのですが、お墓の前に立って手を合わせた時にどんなことを思うのでしょうか・・・。

亡き人を偲び先祖を供養するためであったり、崇りを恐れたり、霊をしずめたり、お願い事をしたり、ただなんとなくとか。また、お念仏して自分にとって都合の良い、思うようになる世界、理想をお願いしたりするかもしれません。

お墓とは、亡き御先祖を仏様と拝むことによって、そんな迷いや苦しみにある私達が、お念仏の御縁をいただく場であります。先祖に感謝して、阿弥陀仏への報恩を感謝して、そこから今の私にまでつながり届いているいのちです。

迷いのこの世、此岸（しがん）から悟りの彼の岸へわたるということは、お浄土の仏様の声、また、亡き人の尊い願いの声を聞かせていただくことであります。様々なことにとらわれている自分の姿に気づかされ、その姿を問い返す時から、その人にとってのお念仏の生活がはじまっていくのではないかと思います。

また彼岸の頃には多くのお寺で永代経法要もお勤めされていますので、お寺の本堂にもあがり、お念仏の教えを聞いていただきたいと思います。